



国際医療リスクマネジメント学会 世界健康リスクマネジメントセンター

主催者の挨拶

医療機関の災害安全対策 2015

--- 大災害・感染症に対する医療機関の危機管理訓練のあり方 ---

東日本大震災でも多数の住民が医療機関に助けを求めてきました。しかし、被災地における医療機関の災害に対する危機管理訓練はからなずしも十分ではありませんでした。ここに、災害・感染症の危機管理に関する事前訓練には、地域住民と一体になったプログラムが不可欠であることが見いだされます。

日本全土は火山帯に覆われ、かつ大陸プレートの端に位置するために、世界一の地震多発国で、多くの火山リスクも全国に認められます。東日本大震災の被害の大きさは、日本の多数の地震研究者達の予想をはるかに超える大規模でした。したがって、大災害時に対しては災害拠点病院のみならず多数の医療機関が緊急対応に迫られ、大災害に対して一般の医療機関自体が十分な危機管理事前訓練を住民と供にしておく必要があります。

また、新型インフルエンザ、エボラウィルス病、デング熱の事例にみるように、近年では社会経済のグローバル化によって、遠い地域での感染症が日本国内で発生するリスクが年々高まっています。多数の患者を抱える医療機関における各種感染症への危機管理訓練も不可欠です。

以上から、今年度のシンポジウムでは、大災害・日本の医療機関がとるべき危機管理の机上シミュレーションと事前実地訓練に関して、日本を代表する諸機関によってシンポジウムを開催いただけることになりました。

なお、本シンポジウムについては、前日に東京大学医学部で開催される第13回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会との共催でもありますが、今回の方式によって非学会員の方にも広く参加いただけます。

本教育プログラムは、大災害および感染症に対して、あなたの医療機関が構築すべき危機管理の事前訓練に関する多くの貴重な助言を与えるものです。周到な危機シミュレーションと事前実地訓練により、実際に発生する大災害と感染症への危機対応がより円滑になり、地域住民から高い満足度と十分な信頼感が得られます。

2014年12月

国際医療リスクマネジメント学会 会長・理事長
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長
第13回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会総共同会長
酒井 亮二

主催者一同